

木辺遺跡現地説明会資料

平成 29 年 10 月 1 日 (日)
南あわじ市教育委員会
南あわじ市埋蔵文化財調査事務所

1. はじめに

木辺遺跡が位置する南あわじ市^{じんたいこくが}神代国衙～賀集立川瀬^{かじゅうたてがせ}地区では、平成 27 年度より^{けんえいほじょうせいびじ}県営圃場整備事業^{ぎょう}が実施されており、教育委員会では事業実施に伴って本発掘調査を進めてきました。

今回調査を行っている木辺遺跡(賀集立川瀬～神代国衙)周辺には^{ながて}長手遺跡(神代国衙)、^{よめがぶち}嫁ヶ淵遺跡(賀集立川瀬)、^{こくがはいじ}国衙廃寺跡(神代国衙)などの遺跡が分布しています。長手遺跡では^{かまくら}鎌倉・^{むろまち}室町時代の建物跡が見つかっています。

嫁ヶ淵遺跡では^{なら}奈良時代の大型建物跡が 15 棟見つかり、^{ぐんが}郡衙(三原郡の役所)の出先機関であると考えられています。国衙廃寺跡では^{へいあん}奈良・平安時代の建物跡や^{いぶつ}遺物を確認しています。さらに大日川を挟んだ西側には^{いしがつば}石ヶ坪遺跡(賀集八幡北)、^{おのおの}大野遺跡(賀集八幡南・立川瀬)、^{かしのうえ}岸ノ上遺跡(八幡南)など河川に隣接して^{かんが}官衙(役所)的な遺跡が立地することが近年の調査で分かってきました。特に木辺遺跡は、嫁ヶ淵遺跡と国衙廃寺跡とは密接な関係があると思われます。

2. 調査の成果

調査は、工事により地下の遺跡が破壊される排水路部分を中心に調査区(1～6区)を設定し、進めていきました。調査の結果、1区、3区北、3区南の調査区において^{ほったてばしらたてものあと}奈良時代の掘立柱建物跡 8 棟や 6 区で

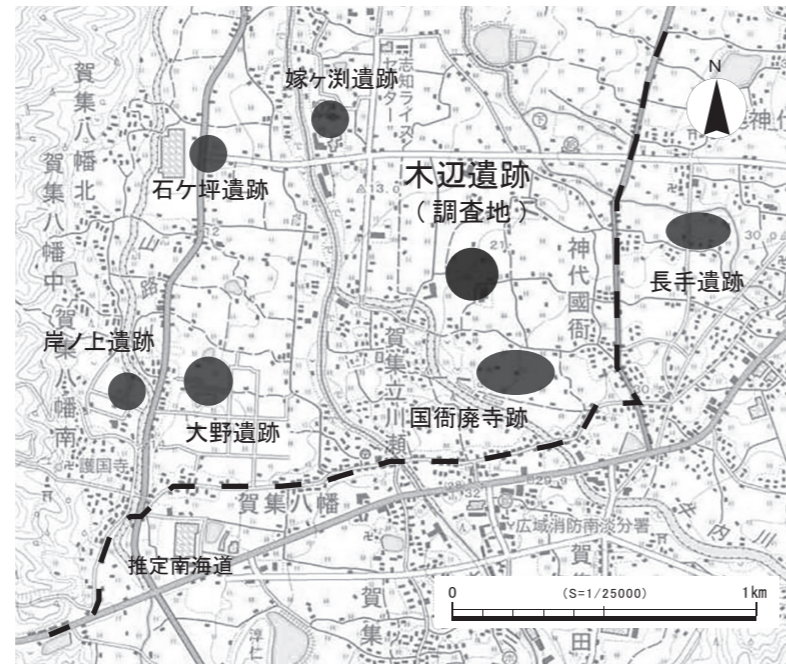


図 1 周辺の遺跡

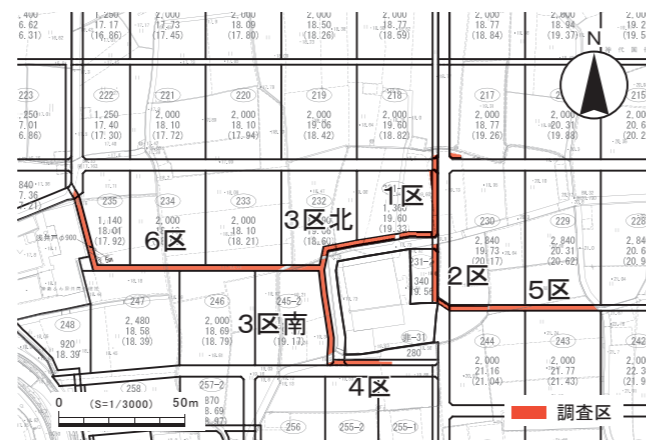


図 2 調査区の位置

^{こふん}古墳時代の^{さいしあと}祭祀跡などを確認することができました。

【1区】掘立柱建物跡を 5 棟確認することができました。5 棟の内、4 棟(建物 1～4)が奈良時代の建物跡と考えられ、いずれも^{がわばしらたてもの}側柱建物です。建物 1 の南には、東西約 2.4 m、南北約 1.0 m、深さ約 10 cm の浅い^{どこう}土坑 19 がありました。土坑や周辺からは、^{すえき}須恵器・^{はじき}土師器・^{せいえんどき}製塩土器などの遺物が出土しています。周辺の建物で使用したものが^{はい}廃棄されたと考えられます。

【3区】水路を挟んで北側と南側に分かります。北側の地区では奈良時代の掘立柱建物跡 1 棟と柱列などを確認することができました。南側では掘立柱建物跡を 3 棟確認することができました。南側の建物は、^{そうばしらたてもの}総柱建物と呼ばれる建物で、^{そうこ}倉庫として使用されたと考えられます。

【6区】6区では 5～7 世紀にかけての^{みずべ}水辺の祭祀跡が見つかりました。5～6 世紀の浅い土坑から大量の土器とともに^{かつせき}滑石という軟らかくて加工しやすい石でつくった^{まがたま}勾玉や^{くだたま}管玉、^{うすだま}白玉といった^{たま}玉類が出土しました。また、幅約 8 m の 5～7 世紀の溝の中からは大量の土器が何層にもなって見つかり、何度も祭祀を行っていたようです。どちらの祭祀跡からも



写真 1 1区空中写真(上が北)



写真 2 1区土坑 19 から遺物が出てきた様子(南東より)

土師器の^{たかつき}高坏という^{わん}埴はらに脚がついた食べ物を盛り付ける土器が大量に出土しました。

3. まとめ

今回の調査により、古墳時代の祭祀跡や奈良時代の前半期の建物群を確認することが

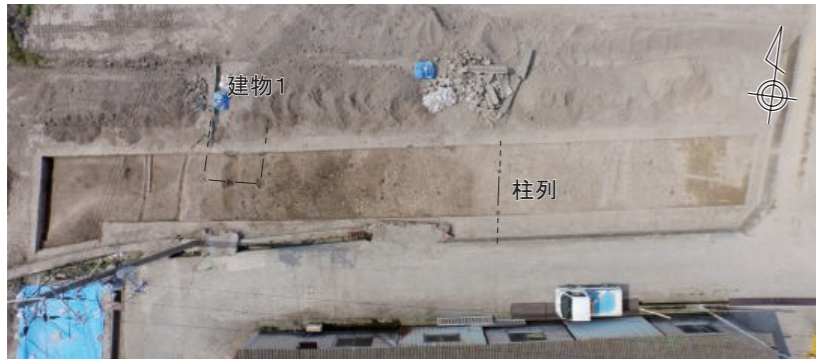


写真3 3区北空中写真(上が北)



写真4 3区南空中写真(上が北)

できました。特に奈良時代の建物群は南北方向を意識することや柱穴が比較的大きいこと、また側柱建物と総柱建物がセットで見つ

^{はしらあな}柱穴が比較的大きいこと、また側柱建物と総柱建物がセットで見つ

かっているのが特徴です。これらの特徴から建物群は、一般集落とは考えにくく、中心となる施設は見つかっていませんが、官衙(役所)跡の一部を確認したと考えられます。



写真5 6区土坑から滑石製品が出てきた様子(南より)



写真6 6区溝から土器が出てきた様子(南西より)

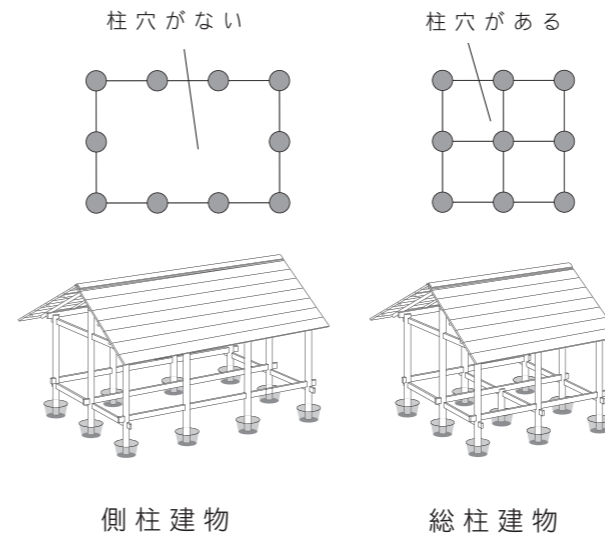


図3 側柱建物と総柱建物の違い



図4 木辺遺跡想像図

れきし年表

時代	主なできごと	市内の主な遺跡
時代石器	B.C. 11,000年頃 土器作りが始まる	曾根遺跡(北阿万筒井)
縄文時代	B.C. 400年頃 米作りが始まる	平石遺跡(湊里) 九歳遺跡(阿万東町)
弥生時代	2世紀後半頃 239年 3世紀後半頃 倭の国大いに乱れる 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る 古墳が築かれる	平石遺跡(湊里) 松帆跡(松帆) 幡多遺跡(榎列上幡多~下幡多) 井手田遺跡(阿万上町) 幡多遺跡(榎列上幡多~下幡多)
古墳時代	538年 607年 646年 710年 仏教が日本に伝わる 法隆寺が造られる 大化の改新 平城京に都を遷す	木戸原遺跡(市新~三條) 木辺遺跡(賀集立川瀬~神代国衙) 里丸山古墳群(湊里) 汁谷跡(神代黒道) 榎ヶ淵遺跡(賀集立川瀬) 木辺遺跡(賀集立川瀬~神代国衙)
奈良時代	750年頃 794年 894年 各国に国分寺・国分尼寺が造られる 平安京に都を遷す 遣唐使の廃止	国衙廃寺跡(神代国衙) 淡路国分寺跡・淡路国分尼寺跡(八木国分・新庄) 平石遺跡(湊里)
平安時代	1167年 1185年 平清盛が太政大臣となる 源頼朝が鎌倉幕府を開く	井手田遺跡(阿万上町) 平石遺跡(湊里)
鎌倉時代	1274年 1338年 蒙古襲来 足利尊氏が室町幕府を開く	平石遺跡(湊里) 長手遺跡(神代国衙) 淡路安国寺跡(八木大久保)
室町時代	1467年 応仁の乱が起こる	養宜館跡(八木養宜中)
時代安土	1576年 織田信長が安土城を築く	上久保遺跡(賀集野田)
時代江戸	1586年 1603年 豊臣秀吉が関白となる 徳川家康が江戸幕府を開く	志知城跡(志知松本) 叶堂城跡(松帆古津路)
時代明治	1868年 明治維新	里原田遺跡(湊里)
時代大正	1914年 第一次世界大戦	垠平焼窯跡(北阿万伊賀野) 行者ヶ嶽砲台跡(福良西)

表1 歴史年表

- *官衙…奈良・平安時代、日本の国は60あまりの国に分けて、^{くに}国・^{ぐん}郡・^り里(郷)を単位として統治が行われ、この国・郡・里(郷)にはそれぞれに役所が置かれた。その役所のこと。
- *掘立柱建物…地面に穴を掘って直接柱を据える建物。
- *側柱建物…建物の外周りだけに柱を持つ構造の建物。
- *総柱建物…建物の外周りと内部にも柱を持つ構造の建物。
- *製塩土器…塩作りに使用された土器で、木辺遺跡の南にある国衙廃寺跡からは、底が丸い砲弾の形をした奈良時代の製塩土器がまとまって見ついている。
- *水辺の祭祀…人々にとって、水は最も重要なもので、川や井戸など水辺で行われる“おまつり”のこと。

用語の説明